

令和7年8月4日
第8回定例会資料
報告事項2

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議 の概要について

徳島県教育委員会教育創生課

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

1 日 時 令和7年7月30日（水） 午後1時30分から午後4時まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

（1） 委員 16名中14名出席（欠席2名）

（2） 県 教育長、教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

（1） 会長・副会長の選出（会長：佐古秀一委員、副会長：金西計英委員）

（2） 本県公立高等学校の現状について

（3） 公立高等学校に求められる役割について

（4） 公立高等学校のさらなる特色化・魅力化について

（5） その他

5 岩本委員（一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事）による 全国の高校魅力化の取組動向などの話題提供

○生徒を主語に考えれば、生徒が望む、生徒自身にとって適正な学校規模は多様である。

○存続の危機にあった公立高校において、コーディネーターの配置や地域留学などにより、質の高い教育の実現や全国からの若者に選ばれる魅力ある高校づくり・地域づくりにつながった事例が見られる。

○高等学校と地域・社会は、会議等で発言するだけの「協議体制」を越えて、目標を共有し、資源も出し合いながら事業・活動も行う「協働体制」を構築・運用していく必要がある。

○私立高校無償化の影響により、都市部の私学や私立広域通信制高校への生徒の流出が懸念されることから、地域唯一の公立高校や専門高校に対して、その魅力を最大限に引き出すための抜本的な支援策を講じるべきと考える。

○広報戦略として、地元向けには情報発信のため総花的に見せつつ、大都市圏では学校の特色ある強みを戦略的にアピールすることが重要である。

○生徒数減少の危機感を共有するだけでなく、生徒、学校、地域にとってメリットとなるビジョンを対話を通じて共に創り出す必要がある。そのビジョンによる取組の成果が生徒の成長や変化として表れることで、地域の一般の方々も巻き込み、行動を促すことができる。

6 意見交換における主な発言概要

- 公立高校の課題は、教育の枠組みだけでなく、経済界など社会全体が危機感を共有し、本気で取り組むべき、より大きな問題として捉える必要がある。
- 生徒一人一人の夢や目標を実現できるよう、学びを支援し、必要な学力や技能を身に付けられる環境を整えるべきと考える。多様な体験活動を通じて、社会に溶け込む力を培ってもらいたい。
- 全国の先進事例が示すように、高校魅力化を推進するには、コーディネーターの配置が不可欠である。本県においても、県教委と地元自治体が連携して、学校と地域をつなぐコーディネーターが配置できる体制の構築を進めていただきたい。
- 学校現場では、働き方改革が進められているが、さらなる特色化・魅力化を進めるための人的・物的な支援が不足している。コーディネーターの配置に係る予算も含め、財政支援策の検討を進めるべきである。
- 県内の公立高校では、すでに自治体や高等教育機関と連携した特色ある取組が実施されている。その特色・魅力を明確に打ち出すため、新しい学科やコースの設置を検討する必要がある。
- 生徒が目的意識を持って高校を選択できるよう、小・中学校からのキャリア教育が重要である。また、各高校の取組が中学生や保護者などに十分に伝わる効果的な情報発信が必要である。
- 地域との連携・協働を進める上で、コミュニティ・スクールを効果的に機能させることが重要である。学校運営協議会を、子どもたちのために何ができるかという当事者意識を持って話し合える場にするべきと考える。
- 徳島市内の普通科高校の教育課程には、新しい取組を行うだけの時間的余裕が少ないと感じる。学校の先生、コーディネーター、県や地元自治体といった多様な関係者が、それぞれの学校や地域がどのような学びを目指すのか、現実的に考える必要がある。
- 海部高校に入学してくる地元の生徒は、小学校から中学校まで人間関係がほぼ固定化している。しかし、高校では県外や県内の他地域からの入学者も多数おり、多様な交流の機会が生まれ、それが生徒の成長につながっていると考えられる。

第 1 回徳島県公立高等学校の在り方検討会議

次 第

1 日 時 令和 7 年 7 月 3 0 日（水） 午後 1 時 3 0 分から午後 4 時まで

2 場 所 県庁 1 0 階 大会議室

3 議 題

- （１）会長・副会長の選出について
- （２）本県公立高等学校の現状について
- （３）公立高等学校に求められる役割について
- （４）公立高等学校のさらなる特色化・魅力化について
- （５）その他

4 配付資料

次第（本紙）

会場配席図（本紙裏面）

資料 1 徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱

資料 2 徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員一覧

資料 3 これまでの検討経過

資料 4 本県公立高等学校の現状

資料 5 これまでの県内の取組

資料 6 高校生と教育長によるアイデアソンについて

資料 7 今後の開催スケジュール（予定）

参考資料 1 徳島教育大綱・徳島県教育振興計画第 4 期

参考資料 2 令和 8 年度徳島県公立高等学校入学者選抜生徒募集案内

参考資料 3 高校魅力化の方策リーフレット・小冊子

参考資料 4 全国募集リーフレット

◆第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議

検討のポイント

① 現状と課題

急速に進む社会の変化

県内・国内の人口減少と高齢化→ **15年後、県内高校生徒数は約40%減少**
グローバル化 デジタルトランスフォーメーション 急速な技術革新 地球環境問題等

- 社会の変化に対応するために獲得すべき能力として思考力・判断力・表現力、主体性や人間性、それらを総合して新たな価値を創造していく力を育てる必要性
- 学びの機会均等の確保
- 生徒が学びやすく、多様性が確保された学校環境
- 人材確保が困難な時代に対応するため、地域が求める産業人材の育成

② これまでの県内公立高校の取組

基本方針（徳島県が目指す教育の姿）
個性と国際性に富み、夢と志あふれる「人財」の育成

- スクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）R4年度末に全ての県立高校に設置
- 生徒主体の校則見直し
- 教育DX環境整備＋県域アカウント
- DXハイスクール（デジタル等成長分野を支える人材育成）
- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）（将来の国際的な科学技術人材育成）
- 英語による国際体験活動の推進
- 産業界や高等教育機関と連携した実践的な学びの推進
- スポーツの競技力向上や文化芸術活動の充実
- 全国からの生徒募集

③ これまでの検討経緯

通学区域制の見直し方針(R7年3月)において、受検機会の公平性の観点から

- (1) **R11年度入試から、県立高校普通科の学区撤廃**
- (2) 激変緩和措置として、R8年度入試から流入率を段階的に引上げ

今後の検討を要する事項

- (1) 通学区域制に関する事項について（高校の募集定員や入試制度など）
- (2) 公立高校の在り方の方向性に関する意見
 - ①普通科高校の適正配置や再編統合などについて、議論し方針を示す必要
 - ②県西部・県南部の拠点校を定め、教育環境整備（新校舎等）が必要
 - ③地元自治体等、多様な主体と連携した、さらなる特色化・魅力化の推進が必要

④ ご検討いただきたい事項

以上のことを踏まえ、徳島県の公立高校の在り方について、
15年後を見据え、以下の内容を中心にご検討をお願いします。

(1) さらなる特色化・魅力化の推進について

- 例
- 生徒の学習意欲を喚起し、能力を最大限伸ばすためのカリキュラム改革など
学科・コースの在り方
 - 文理融合の学びや、STEAM教育*、グローバル教育の推進
 - 地域社会や高等教育機関との協働による教育の在り方
 - 地域社会のサステナブルな発展のための産業人材育成に向けた教育の在り方
 - 高校における特色化・魅力化の取組の拡大・充実に対する支援制度の在り方

(2) 子どもの数の減少をはじめとした、社会の変化に対応する高校の規模や配置、教育環境整備について

(3) 入試制度改革について

(4) その他

*Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics の5つの分野での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

徳島県公立高等学校の在り方検討会議設置要綱

（設 置）

第1条 徳島県公立高等学校の今後の在り方について検討するため、「徳島県公立高等学校の在り方検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 検討会議は、次に掲げる事項を検討する。なお、検討結果については、徳島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告するものとする。

- （1）公立高等学校のさらなる特色化・魅力化に関する事項
- （2）公立高等学校の学校規模や配置に関する事項
- （3）その他公立高等学校の在り方に関連して検討が必要な事項

（組 織）

第3条 検討会議は、20名以内で組織する。

- 2 委員は、有識者、行政関係者及び学校関係者から、教育長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、第2条に掲げる報告が終了するまでとする。
- 4 欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第4条 検討会議に、会長1人及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、検討会議を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（運 営）

第5条 検討会議は、会長が招集する。

- 2 検討会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 会長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

（部 会）

第6条 検討会議に入試制度部会（以下「部会」という。）を設置する。

- 2 部会は、委員10名以内で組織し、委員は、教育長が委嘱する。
- 3 部会には、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。
- 4 ワーキンググループの構成員は、教育長が委嘱する。

（庶 務）

第7条 検討会議及び部会の庶務は、徳島県教育委員会教育創生課において処理する。

（その他）

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議及び部会の運営に関し必要な事項は、検討会議及び部会に諮り定める。

附 則 この要綱は、令和7年7月7日から施行する。

徳島県公立高等学校の在り方検討会議委員一覧

令和7年7月30日現在

氏 名	役 職 等
赤 松 梨江子	四国まなび未来ネットワーク研究所 代表 文部科学省CSマイスター
岩 本 悠	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事
植 田 滋	四国化工機株式会社 代表取締役社長CEO
蔭 西 義 輝	公益財団法人徳島経済研究所 上席研究員
金 西 計 英	徳島大学高等教育研究センター 教授
木屋村 浩 章	徳島県高等学校長協会 管理運営研究委員長 徳島県立城東高等学校 校長
佐 古 秀 一	鳴門教育大学 学長
鈴 鹿 剛	四国大学 准教授
住 村 早 紀	徳島市・名東郡PTA連合会 会長
滝 川 尚	徳島県中学校長会 事務局長 徳島市富田中学校 校長
田 村 康 治	徳島県小学校長会 事務局長 徳島市富田小学校 校長
納 田 明 豊	有限会社NOUDA 代表取締役社長
服 部 あ い	独立行政法人国際協力機構四国センターJICA徳島デスク 国際協力推進員
正 木 美智子	徳島県PTA連合会 副会長
松 本 賢 治	徳島県市町村教育長会 会長 徳島市教育委員会 教育長
米 田 若 菜	一般社団法人神山つなぐ公社 ひとづくり担当

※50音順、敬称略

これまでの検討経過

1 通学区域制に関する有識者会議 報告書（令和7年3月）

○入学者選抜（公立高校普通科の通学区域制）に関する提言

○今後の検討を要する事項

（1）通学区域制に関する事項について

①高等学校の募集定員 ②入学者選抜制度の改革 ③遠距離通学

（2）公立高校の在り方の方向性に関する意見

- ①普通科高校の適正配置や再編統合など公立高校の在り方について、検討委員会において議論し、方針を示すことが必要
- ②県西部・県南部の拠点校※を定め、新校舎を整備するなど教育環境の公平性を担保することが必要
- ③地元自治体をはじめ、多様な主体とともに各高校のさらなる特色化・魅力化を進めることが必要

※拠点校 …… 一定の学校規模を確保し、学びの質を維持・向上させる中心的な役割を果たす学校

2 徳島県公立高等学校普通科の通学区域制の見直し方針（令和7年3月13日）

○通学区域制の変更

令和11年度入学者選抜から、県立高校普通科の通学区域を県内全域とする。

○学区外からの合格者数の上限を定める流入率の変更

（1）令和8年度入学者選抜

第1学区については、20%から22%に、第2学区については、12%から14%に、第3学区の「城南高校、城北高校、徳島北高校」については、12%から14%にそれぞれ引き上げる。

（2）令和9年度、令和10年度入学者選抜

流入率引上げ後の選抜結果等を勘案し、各年度の徳島県公立高等学校入学者選抜基本方針において決定する。

【留意事項】

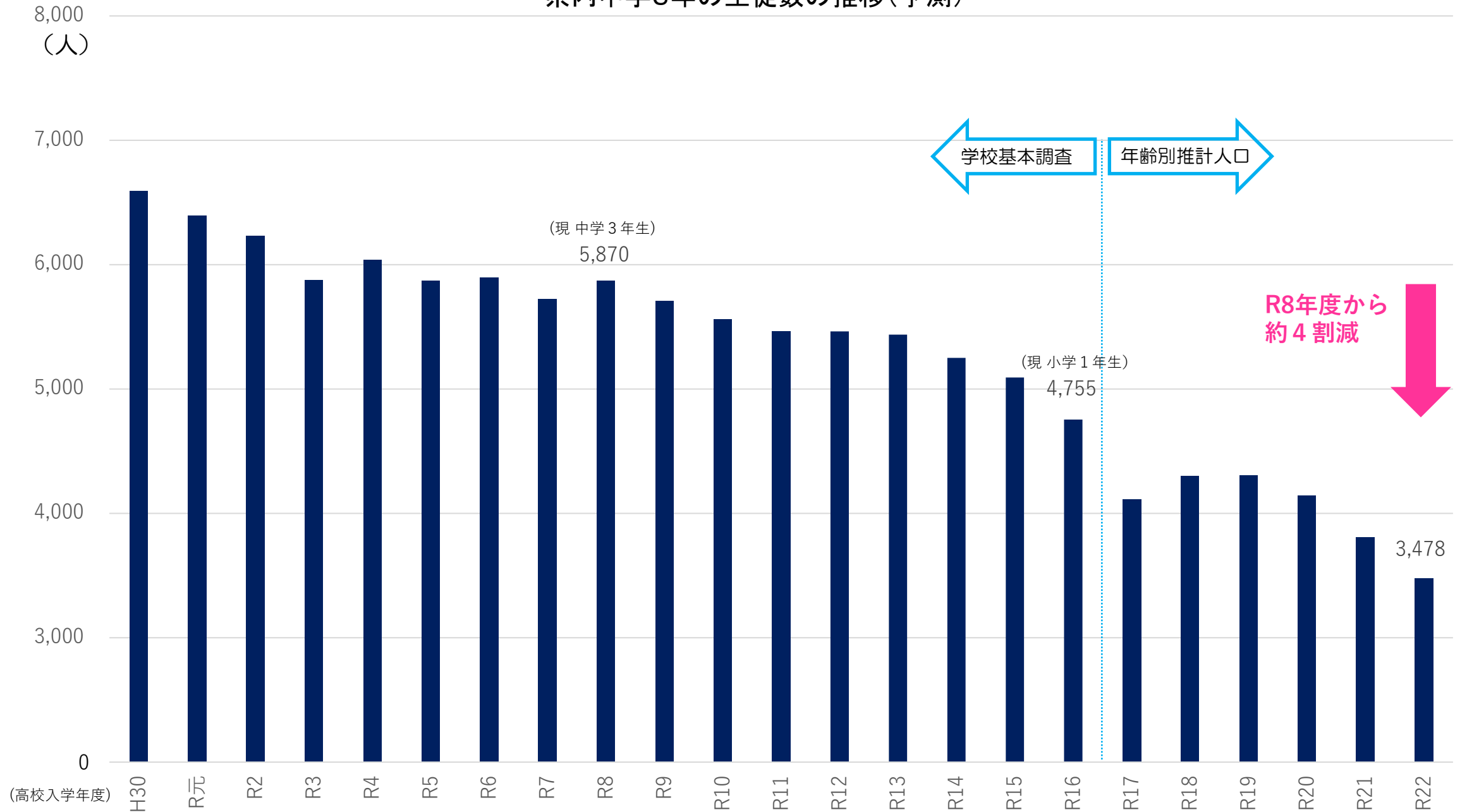
- ・大きな混乱を招くことがないよう、生徒、保護者及び学校等に対し、十分な周知を図る。
- ・徳島市立高校については、徳島市が主体的に検討と判断を行い、各年度の徳島県公立高等学校入学者選抜基本方針において決定する。

本県公立高等学校の現状

県内中学３年の生徒数の推移（予測）	1
県内中学３年の生徒数の地域別推移（予測）	2
高等学校・中等教育学校 配置図	3
公立高等学校・県立中等教育学校及び県立中学校の設置状況	4

県内中学3年の生徒数の推移(予測)

1



(出典)文部科学省「学校基本調査」(H30~R16)、徳島県「年齢別推計人口」(R17~R22)

県内中学3年の生徒数の地域別推移(予測)

高校入学年度 地域	R8年度 (現 中3生)	R16年度 (現 小1生)	〈R8比〉		R22年度	〈R8比〉	
			増減数(人)			増減数(人)	
			増減率(%)			増減率(%)	
県全体	5,870	4,755	△ 1,115		3,478	△ 2,392	
			△ 19.0%			△ 40.7%	
徳島市	2,213	1,848	△ 365		1,493	△ 720	
			△ 16.5%			△ 32.5%	
名東郡	17	12	△ 5		8	△ 9	
			△ 29.4%			△ 52.9%	
小松島市	259	181	△ 78		130	△ 129	
			△ 30.1%			△ 49.8%	
勝浦郡	37	36	△ 1		13	△ 24	
			△ 2.7%			△ 64.9%	
阿南市	654	447	△ 207		350	△ 304	
			△ 31.7%			△ 46.5%	
那賀郡	46	16	△ 30		16	△ 30	
			△ 65.2%			△ 65.2%	
海部郡	103	70	△ 33		41	△ 62	
			△ 32.0%			△ 60.2%	
鳴門市	401	346	△ 55		209	△ 192	
			△ 13.7%			△ 47.9%	
板野郡	834	802	△ 32		635	△ 199	
			△ 3.8%			△ 23.9%	
名西郡	227	211	△ 16		122	△ 105	
			△ 7.0%			△ 46.3%	
吉野川市	295	218	△ 77		125	△ 170	
			△ 26.1%			△ 57.6%	
阿波市	285	200	△ 85		117	△ 168	
			△ 29.8%			△ 58.9%	
美馬市	207	128	△ 79		90	△ 117	
			△ 38.2%			△ 56.5%	
美馬郡	39	34	△ 5		16	△ 23	
			△ 12.8%			△ 59.0%	
三好市	135	97	△ 38		57	△ 78	
			△ 28.1%			△ 57.8%	
三好郡	118	109	△ 9		56	△ 62	
			△ 7.6%			△ 52.5%	

(出典)文部科学省「学校基本調査」(R8・R16)、徳島県「年齢別推計人口」(R22)

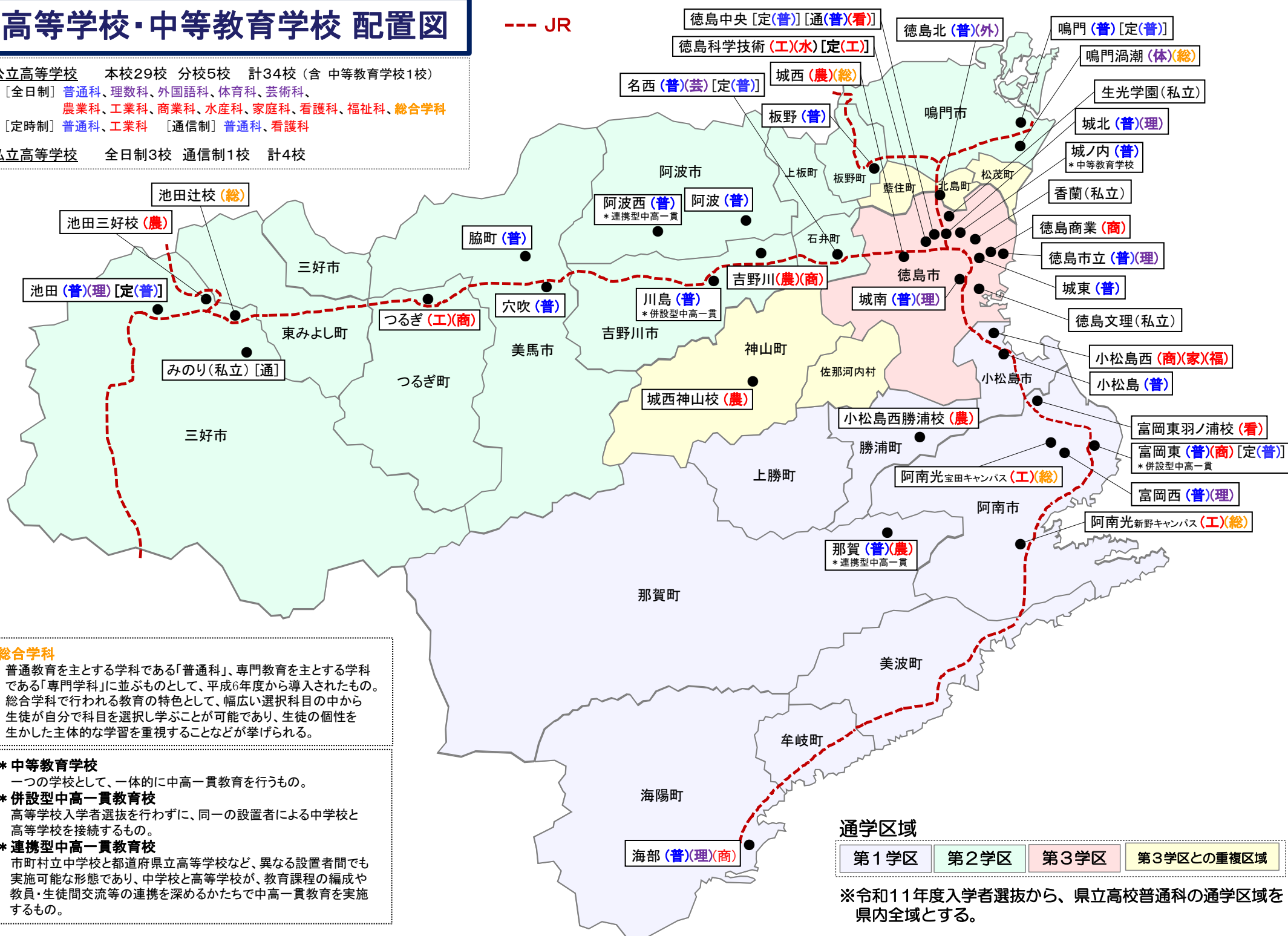
高等学校・中等教育学校 配置図

公立高等学校 本校29校 分校5校 計34校 (含 中等教育学校1校)

[全日制] 普通科、理数科、外国語科、体育科、芸術科、
農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、福祉科、総合学科
[定時制] 普通科、工業科 [通信制] 普通科、看護科

私立高等学校 全日制3校 通信制1校 計4校

--- JR



総合学科

普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶものとして、平成6年度から導入されたもの。総合学科で行われる教育の特色として、幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視することなどが挙げられる。

* 中等教育学校

一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの。

* 併設型中高一貫教育校

高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの。

* 連携型中高一貫教育校

市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態であり、中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるかたちで中高一貫教育を実施するもの。

通学区域

第1学区 第2学区 第3学区 第3学区との重複区域

※令和11年度入学者選抜から、県立高校普通科の通学区域を県内全域とする。

公立高等学校・県立中等教育学校及び県立中学校の設置状況

(1) 公立高等学校 全日制の課程

※生徒数は令和7年5月1日現在

	学校名	学科及び類名	令和7年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合
1	城東高校	普通	280	834	○												
2	城南高校	普通	240	805	○												
		理数 応用数理	30			○											
3	城北高校	普通	240	805	○												
		理数 理数科学	30			○											
4	徳島北高校	普通	220	807	○												
		外国語 国際英語	40				○										
5	徳島市立高校	普通	260	912	○												
		理数 理数	40			○											
6	城西高校	農業 生産技術	20	457				○									
		植物活用	20														
		食品科学	25														
		アグリビジネス	25														
		総合	70														○
7	城西高校神山校	農業 地域創生類	30	70				○									
8	徳島科学技術高校	工業 総合科学類	60	871					○								
		機械技術類	70														
		電気技術類	60														
		建設技術類	80														
		水産 海洋科学類	10								○						
		海洋技術類	20														
9	徳島商業高校	商業 ビジネス探究	60	710						○							
		ビジネス創造	180														
10	小松島高校	普通	160	478	○												
11	小松島西高校	商業 商業	50	481						○							
		家庭 食物	70									○					
		生活文化	20														
		福祉 福祉	30											○			
12	小松島西高校勝浦校	農業 応用生産	15	69				○									
		園芸福祉	15														
13	富岡東高校	普通	145	522	○												
		商業 商業	30							○							
14	富岡東高校羽ノ浦校	看護 看護	40	186									○				
		専攻 看護															
15	富岡西高校	普通	155	555	○												
		理数 理数	30			○											
16	阿南光高校	工業 機械ロボットシステム	30	482					○								
		電気情報システム	25														
		都市環境システム	25														
		総合 産業創造	85														○
17	那賀高校	普通	45	173	○												
		農業 森林クリエイト	20					○									
18	海部高校	普通	60	272	○												
		商業 情報ビジネス	20							○							
		理数 数理科学	30			○											
19	鳴門高校	普通	245	795	○												
20	鳴門渦潮高校	体育 スポーツ科学	60	548											○		
		総合	120														○
21	板野高校	普通	125	382	○												
22	名西高校	普通	65	295	○												
		芸術 芸術(音楽)	15													○	
		芸術(美術)	20														
		芸術(書道)	10														

	学校名	学科及び類名		令和7年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合		
23	吉野川高校	農業	農業科学	15	287				○											
			生物活用	15																
		商業	会計ビジネス	20								○								
			情報ビジネス	25																
			食ビジネス	25																
24	川島高校	普通		110	346	○														
25	阿波高校	普通		130	425	○														
26	阿波西高校	普通		45	131	○														
27	穴吹高校	普通		45	119	○														
28	脇町高校	普通		165	488	○														
29	つるぎ高校	工業	電気	40	412					○										
			機械	45																
			建設	20																
		商業	商業	25							○									
			地域ビジネス	20																
30	池田高校	普通		120	426	○														
		理数	探究	35			○													
31	池田高校辻校	総合		45	106													○		
32	池田高校三好校	農業	食農科学	20	83				○											
			環境資源	15																
全 日 制 計				4,850	14,332	19	6	1	6	3	6	1	1	1	1	1	1	4		

	普通科(含 理数・体育・芸術・外国語)						専門学科(除 理数・体育・芸術・外国語)								総合 学科
	普通	理数	体育	芸術	外国語	小計	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	小計	
令和7年度全日制募集定員 構成比(%)	58.9	4.0	1.2	0.9	0.8	65.9	4.8	9.4	9.4	0.6	1.9	0.8	0.6	27.5	6.6

(2) 公立高等学校 定時制の課程

	学校名	学科及び類名		令和7年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合
1	徳島科学技術高校	工業	機械類	40	39					○								
			工業技術類	40														
2	徳島中央高校	普通	普通(昼間午前)	60	257	○												
			普通(昼間午後)	30														
			普通(夜間)	40														
3	富岡東高校	普通		40	23	○												
4	鳴門高校	普通		40	33	○												
5	名西高校	普通		40	40	○												
6	池田高校	普通		40	14	○												
定 時 制 計				370	406	5				1								

(3) 公立高等学校 通信制の課程

	学校名	学科及び類名		令和7年度 募集定員	生徒数	普通	理数	外国語	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	体育	芸術	総合
1	徳島中央高校	普通		※	202	○												
		看護	衛生看護											○				

※募集定員については、制限を設けていない。

(4) 県立中等教育学校及び県立中学校

	学校名	令和7年度 募集定員	生徒数
1	城ノ内中等教育学校	140	817
2	富岡東中学校(併設型中高一貫教育校)	70	210
3	県立川島中学校(併設型中高一貫教育校)	50	120
県立中等教育学校及び県立中学校 計		260	1,147

これまでの県内の取組

1 専門高校を中心とした高校再編

- ・進学と就職双方の希望者を支援し、大学進学にも強い専門高校を目指した取組
- ・既存の学校施設を大学のサテライトキャンパスとした高大接続教育の展開 など

2 スクール・ミッション※及びスクール・ポリシー※に基づく特色化・魅力化の推進

- ・「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」の提言を踏まえ、令和3年度に策定
- ・入学者選抜に係る「生徒募集案内」に「学校情報」として掲載
- ・令和5年度入試より、育成型選抜において「スクール・ポリシーに関連した分野」の募集を実施
- ・徳島教育大綱及び徳島県教育振興計画の改定に合わせ、令和6年度に一部見直し

※スクール・ミッション：各公立高校等の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像
徳島県教育委員会及び徳島市教育委員会が策定

※スクール・ポリシー：各公立高校等の教育活動の指針となる3つの方針

- ①育成をめざす資質・能力に関する方針
- ②教育課程に関する方針
- ③入学者の受入れに関する方針

3 魅力化方策の共有・発信

- ・「徳島県公立高等学校魅力化推進委員会」の提言を踏まえ、「高校魅力化の方策」（リーフレット）を制作（令和4年度）
- ・特色化・魅力化に関する県内外の調査結果をもとに、「高校魅力化の方策Ⅱ」（小冊子）を制作（令和6年度）

4 全国募集の実施

- ・平成28年度入学者選抜から、徳島県教育委員会が認めた高校は、「志願者のみの転住」による出願を承認（令和8年度入学者選抜における県外募集実施校は、21校）
- ・地方への高校進学之机を創出する「地域みらい留学事業」に参画し、学校と地域の魅力について積極的な広報活動を実施（海部、那賀、池田、城西神山）
- ・受入れ体制を強化するため、寮を整備（阿南寮南棟、三好池田寮、第3海部寮）

5 各高校の特色化・魅力化を支援する取組

- ・全公立高校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入
- ・ICTの効果的活用を支える環境整備（徳島県GIGAスクール構想、県域アカウント整備 など）
- ・地元自治体や高等教育機関などとの連携協働（海部、鳴門 など）
- ・県及び国の事業の活用
（県：「とくしま生徒まんなか探究活動推進事業」「みんなでプロデュース産業教育推進事業」等）
（国：「スーパーサイエンスハイスクール支援事業」「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」等）

徳島県立海部高校の事例

地域とともにある県内魅力化先進校

平成16年 開校
平成26年 県外志願者受入条件緩和
平成30年 魅力化事業開始

○概要

- ・海部郡内の3校（日和佐高校、海南高校、穴喰商業高校）の再編統合により設置
- ・普通科、数理科学科、情報ビジネス科の3学科4クラス
- ・全校生徒272名のうち、県外生53名（高知県東洋町出身を除く）
- ・平成30年度から、高校と地域が一体となった「魅力化プロジェクト」を展開

○魅力化プロジェクト

〈地域を体験する海部学〉

- ・地域の魅力発見や地域課題解決に関する知識を身につける講演会等を実施
- ・アスリートや指導者による講演会・講習会の実施
- ・地域の祭りなど、伝統行事への高校生の参加支援

〈世界を体感するグローバル教育〉

- ・海外大学との連携協定に基づく、グローバル研修プログラムの実施
- ・海外のネイティブスピーカーによる英会話レッスンの実施

〈魅力化を推進する広報・組織〉

- ・全国から生徒を募集する「地域みらい留学事業」に参画
- ・魅力化コーディネーターの配置、魅力化推進協議会の設置

〈県外生の受入体制〉

- ・海部寮、第二海部寮（以上海陽町）、第三海部寮（牟岐町）を整備 など



グローバル研修プログラム
「海外短期留学」



地域みらい留学対面合同説明会

○海部郡（海陽町・牟岐町・美波町）からの支援

- ・学習支援（通信映像講座、オンライン英会話）
- ・情報ビジネス支援（起業体験、動画作成授業）
- ・グローバル教育支援（短期留学・英検受験料補助）
- ・部活動支援（奨学金、交流大会開催）
- ・県外生受入支援（食事・生活サポート） など

魅力化プロジェクト開始後、地元中学生入学率が向上 47.0%（H29） → 52.5%（R7）

地域みらい留学事業に参画後、県外からの入学生が増加 5名（H31） → 24名（R7）

徳島県立鳴門高校の事例

鳴門教育大学との連携による「Educationプログラム」開設

明治42年 開校
昭和31年 現校名に改称
令和元年 高大連携事業開始

○経緯

- ・平成31年に鳴門教育大学と高大連携に関する協定を締結
- ・令和元年度より、教職大学院生の実習受入を開始
- ・令和2年度より、高大連携推進委員会の開催や大学院生とともに学ぶ学習教室、鳴門教育大学教授による特別講義などを実施
- ・令和7年度より、県教委・鳴門教育大・鳴門市・鳴門市教委と連携し、学校設定科目「Educationプログラム」を開設、1年次生39名が受講

○講座の特色と構成

- ・教員としての素養を磨くことを目的とした、主体的・対話的に学ぶ講座
- ・鳴門教育大学と協力して、授業を計画・実施
- ・年次進行でステップアップする学びの流れ
 - <EプロⅠ>教職入門
(鳴門教育大学と連携、教職の意義や魅力、教育についての話し合い)
 - <EプロⅡ>教職実践
(鳴門市教委と連携、現職教員との交流や地元小中学校等での現場体験)
 - <EプロⅢ>進路実現
(教職系大学入試への対策として、集団討論や面接等の実践練習)



(出典) 鳴門高校HPなど

コミュニティ・スクール ～地域とともにある学校づくり～

子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには**社会総掛かりでの教育の実現**が不可欠です。



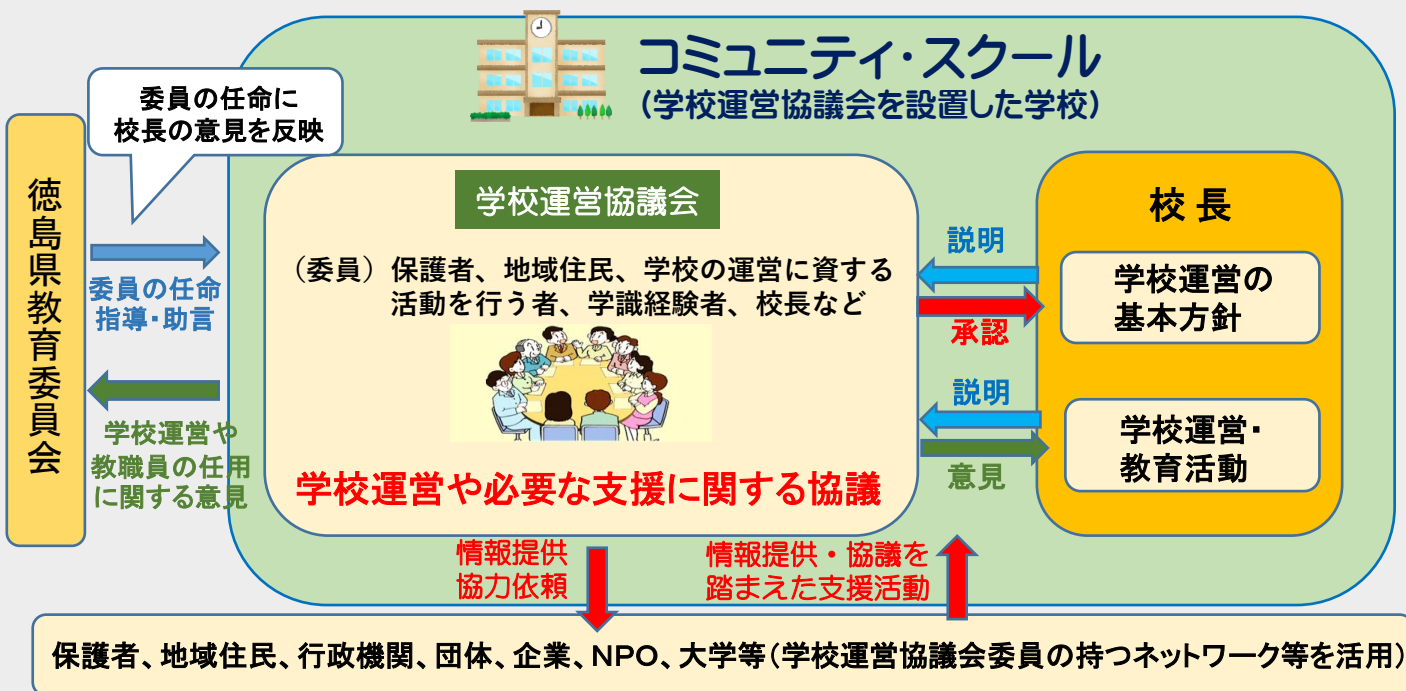
コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。

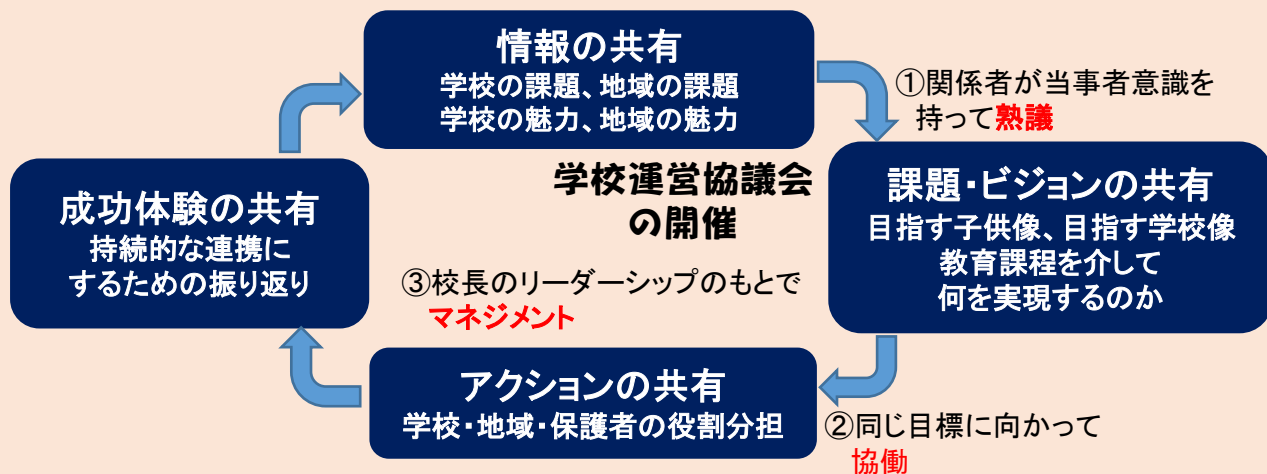
また、学校運営協議会を設置した学校のこともコミュニティ・スクールと呼びます。

令和4年度末までに
全ての県立学校に
コミュニティ・スクールを
導入します。

コミュニティ・スクールのイメージ



運営のポイント(熟議・協働・マネジメント)



コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

子供にとって

- 学びや体験活動が充実する。
- 地域との交流を通して自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。
- 地域の担い手としての自覚が高まる。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる。

教職員にとって

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になる。
- 地域人材を活用した教育活動が充実する。
- 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できる。

保護者にとって

- 学校や地域に対する理解が深まる。
- 地域の中で子供が育てられているという安心感がある。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できる。

地域の人々にとって

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる。
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる。
- 地域の防犯・防災体制等の構築ができる。

コミュニティ・スクールにおける地域と連携した取組例

令和2年度導入校

まずは既存の取組のさらなる充実から！

徳島県立那賀高等学校



地元企業の協力を得た
インターンシップの実施
(キャリア教育の充実)

徳島県立海部高等学校



地域コーディネーターの仲介による、SDGsに取り組む地元企業を招いてのブースセッションの開催

徳島県立名西高等学校



大学教員や地域人材による、エシカル消費をテーマとした出前授業の実施(探究学習の充実)

全国の取組例

- ・企業や大学等の専門性を生かした出前授業
- ・地域人材を活用した特別講座・フィールドワーク
- ・地元小・中学校との交流、共同学習の充実
- ・地元特産品を使用した商品開発
- ・地域の祭りへの参画

- ・障がいのある子供たちの地域生活を支えるネットワーク会議の開催(高等部をもつ特別支援学校としての企業・施設・団体等との関係づくり)
- ・地域と連携・協働して行う防災教育
- ・学習支援や環境整備などの学校支援

より詳しく知りたい方へ

『コミュニティ・スクール2018』(文部科学省)

『コミュニティ・スクールのつくり方(「学校運営協議会設置」の手引き)(令和元年改訂版)』(文部科学省)

『これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動』(文部科学省)

これらのパンフレットは文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」HPよりご覧いただけます。

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/document/pamphlet/index.html>



【コミュニティ・スクールに関する問合せ】

徳島県教育委員会 〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

学校教育課 TEL:088-621-3134 FAX:088-621-2882

特別支援教育課 TEL:088-621-3142 FAX:088-621-3056



スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業

令和7年度予算額（案）

23億円

（前年度予算額

23億円）

※運営費交付金中の推計額 文部科学省



目的

- 先進的な理数系教育や文理融合領域に関する研究開発を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し支援することを通じて、**将来のイノベーションの創出を担う科学技術人材の育成**を図る。
- 高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する実証的資料を得る（学習指導要領の枠を超えた教育課程の編成が可能）。

事業概要

＜SSHとしての指定＞

【基礎枠】

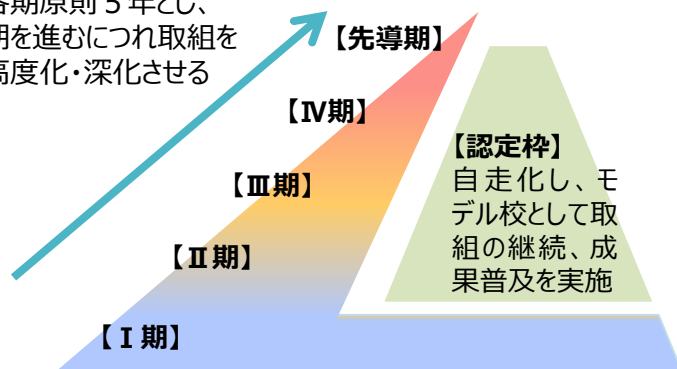
- 令和7年度指定校数：
229校程度（うち認定枠：25校）
（うち新規：33校（うち認定枠：10校））
- 指定期間：各期原則5年
- 支援額：6百万円～12百万円/年

● 類型

＜基礎枠＞ 自然科学を主とする先進的な理数系教育に関する研究開発を実施。

＜文理融合基礎枠＞ 社会の諸課題に対応するため、自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」との融合による「総合知」を創出・活用した先進的な理数系教育に関する研究開発を実施。

各期原則5年とし、期を進むにつれ取組を高度化・深化させる



＜SSH指定校への追加支援＞

【重点枠】

- 令和7年度重点枠数：
12校＋1コンソーシアム程度（うち新規：4校）
- 指定期間：最長5年
- 支援額：5～30百万円/年
- 類型
 - ＜高大接続＞ 高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証。
 - ＜広域連携＞ SSHで培った成果等を広域に普及することにより、地域全体の理数系教育の質を向上。
 - ＜海外連携＞ 海外の研究機関等と連携関係を構築し国際性の涵養を図るとともに、将来言語や文化の違いを越えて共同研究ができる人材を育成。
 - ＜革新共創＞ 社会問題・地域課題について、文理横断的な領域も含めた科学的な課題研究を行い、新たな価値の創造を志向する人材を育成（アントレプレナーシップ教育等）。
 - ＜探究推進＞ 優れた研究開発の成果を活用した取組を更に深化・高度化、普及展開。

支援内容

- 学習指導要領の枠を超え、理数を重視した教育課程の編成
- 国内外の高校・大学等との連携、課題研究の実施等に係る費用（旅費、物品費、等）の支援

＜管理機関への追加支援＞

【SSHコーディネーター】

- 令和7年度配置数：
20機関程度
- 支援額：6.6百万/年
- 令和5年度より開始

以下目的を達成するため希望するSSH指定校の管理機関（教育委員会等）に「SSHコーディネーター」を配置

- SSH指定校や地域の探究・理数系教育の充実
- 域内外の学校への成果普及
- 外部機関との連携を推進
- SSH指定校の自走化

成果

- 学習指導要領改訂（科目「理数探究基礎」及び「理数探究」を新設）
- 科学技術への興味・関心や姿勢の向上、進路選択への影響
- SSH卒業生の国内外での活躍
- 科学技術コンテスト等における活躍

（担当：科学技術・学術政策局人材政策課）

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

令和7年度予算額

2億円
(新規)



令和6年度補正予算額

74億円

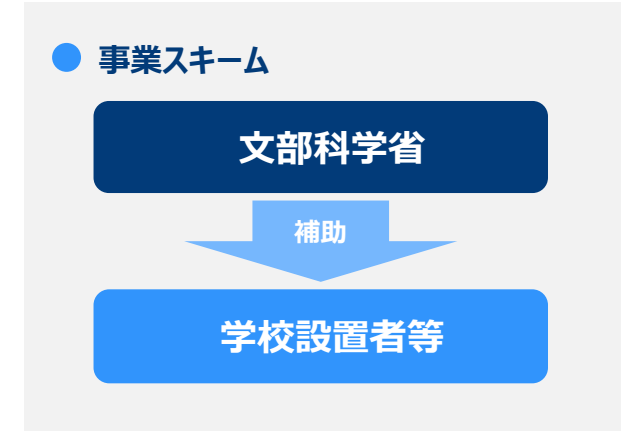
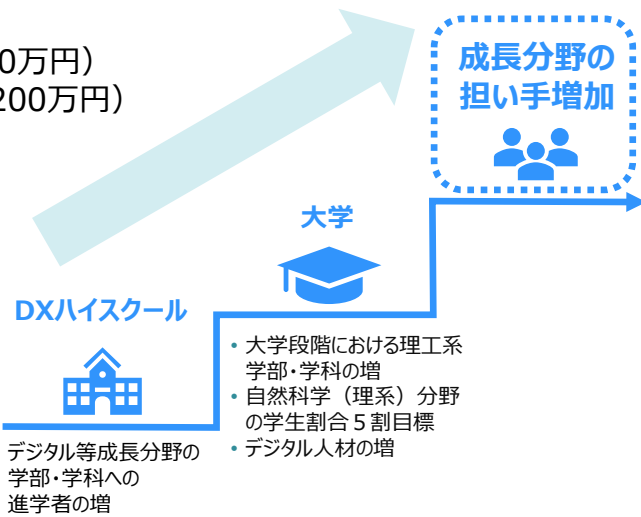
現状・課題	大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要
事業内容	情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等	箇所数・補助上限額 ※定額補助
公立・私立の高等学校等 (1,200校程度)	- 継続校 : 1,000校 × 500万円 (重点類型の場合700万円) - 新規採択校 : 200校 × 1,000万円 (重点類型の場合1,200万円) - 都道府県による域内横断的な取組 : 47都道府県 × 1,000万円 ※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算 (80校 (半導体重点枠を含む))

採択校に求める具体の取組例 (基本類型・重点類型共通)
- 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進 (遠隔授業の活用を含む) - 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置 - デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施 - デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進 - 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施 - 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目 (数学Ⅲ等) の遠隔授業による実施 - 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

採択校に求める具体の取組例 (重点類型 (グローバル型、特色化・魅力化型、) プロフェッショナル型 (半導体重点枠を含む))
- 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等 - 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換 - 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例
ICT機器整備 (ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等)、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等



(担当：初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付)

高校生と教育長によるアイデアソンについて

1 事業の目的

今後の公立高等学校の在り方について、広く県民の意見を把握しつつ、多角的に検討するための一環として、高校生と教育長が直接対話する機会を設けることとした。

2 開催日時 令和7年7月22日(火)午後2時15分から午後4時まで

3 開催場所 徳島県庁11階 CO-CAGEキッチン

4 参加者

公立高等学校等（26校）から「生徒43名」と「ファシリテーター（教員）12名」が参加

5 内容

「未来の学びを創造し、理想の公立高校をデザインしよう！」をテーマに、以下の項目について意見交換を実施

- I. 「未来の学びの場」と「地域とのつながり」について（2グループ）
- II. 「未来を生き抜く力」と「夢への挑戦・追求」について（2グループ）
- III. 「学校の特色化・魅力化」と「自分らしさ」について（2グループ）

6 主な発表内容

【未来の学校が果たす役割・地域と学校の連携が生み出す学び】

- ・地域の人々が集う「みんなの家」、多様な学びの機会の提供、防災拠点としての役割など
- ・地域を巻き込んだ実践的な学びの実現、地域文化の継承と活性化など

【未来を生き抜く力・夢への挑戦・追求ができる環境】

- ・コミュニケーション力、探究心、主体性・行動力、自己管理能力、自己表現力など
- ・多様な経験と学びの機会、助成金、設備の充実など

【学校の特色化・魅力化への取組】

- ・学校名物の作成、地域連携・文化継承、多様な進路選択と個性的な部活動など

【自分らしさを伸ばせる高校】

- ・柔軟な学びをサポート、創造性を育む場など

7 具体的な意見（抜粋）

- ・学校という場所を授業として利用するだけでなく、地域の人たちの話し合いの場や交流の拠点としての役割を果たすことができるようにしてほしい
- ・本当に学びたい学問を、時間をかけてじっくり選ぶことができる制度を作ってほしい
- ・通学時間を朝と昼に分けたり、学びたい科目だけを学べる日を作ったりしても良いと思う
- ・「いてほしい先生」や「来てほしい先生」のリストを作成してそれを叶えられる学校があったら面白い



今後の開催スケジュール（予定）

第 1 回検討会議 令和 7 年 7 月 3 0 日（水）

- 本県公立高等学校の現状について
- 公立高等学校に求められる役割について
- さらなる特色化・魅力化について

第 1 回入試制度部会
（令和 7 年 8 月頃）

第 2 回検討会議 令和 7 年 1 0 月頃

- アンケート結果およびタウンミーティング結果について
- 学校規模・配置について
- さらなる特色化・魅力化について

第 2 回入試制度部会
（令和 7 年 1 1 月頃）

第 3 回検討会議 令和 7 年 1 2 月頃

- 学校規模・配置について
- さらなる特色化・魅力化について

第 3 回入試制度部会
（令和 8 年 1 月頃）

第 4 回検討会議 令和 8 年 2 月頃

- 1 次取りまとめ（案）について

第 5 回検討会議 令和 8 年 5 月頃

- 学校規模・配置について
- さらなる特色化・魅力化について

第 4 回入試制度部会
（令和 8 年 6 月頃）

第 6 回検討会議 令和 8 年 7 月頃

- 学校規模・配置について
- さらなる特色化・魅力化について

第 5 回入試制度部会
（令和 8 年 8 月頃）

第 7 回検討会議 令和 8 年 1 0 月頃

- 入試制度について

第 8 回検討会議 令和 8 年 1 2 月頃

- 2 次取りまとめ（案）について

報 告 令和 9 年 1 月頃

検討会議から徳島県教育委員会へ

その他

- 高校生と教育長によるアイデアソンの実施（令和 7 年 7 月 2 2 日）
- 各地域でのタウンミーティングの実施（令和 7 年 8 月～1 0 月）
- 中高生や保護者等を対象としたアンケートの実施（令和 7 年 9 月）